

特別
イ 4
3163
193(1)



貴
14
3163
193(1)



倭祖命世
元云百船
度會國百
船言度會
之發語

陽復記上

神國伊勢の國百船度會に那を内外乃神此
雄略のいりるる今世よりまで上へ下へ
神威とまよふとまよふとまよふとまよふと
自然の地とみ民ゆこうにて上代の流風餘韻を
えんとすに祠宮ふじまれとまよふとまよふと
よほふるれむらく神宮の日記と披見一儒典の
のいりて二の同志也かきりなむ



111

上公家礼
云深衣考
證樂平馬
氏云雖康
節大賢亦
有今人不
敢服古衣
之說

敢服古衣と云深衣と云は儒の
りたるものありて一は後い異國にて
しと云ふと云ふものありて一は事也神
まれり人の神代のびいと云ひ國法乃古
しと儒道の中なる也近代儒と云ふ人
りたるものありて一は佛氏と人乃崇
敬と云ふものありて一は深衣と云ふ
ものありて一は異服と云ふ人のめと
やと云ふは深衣と云ふものありて一は

上延喜格
式表云取
捨弘仁貞
觀之弛張
因蕭永徽
開元之沿
革

個時代より。國法のゆつと事あるべし
一思ひ居るものありて深衣なる
のり蝙蝠僧と云ふものありて一は
冠昏喪祭の禮と云ふものありて一は
律令格式等の書と云ふものありて一は
ぬ事なるものありて一は格式等も
國の法と考て一は國の古法を合て
吾國の古法のよもあつて一は異國の
と云ふものありて一は同姓と云ふ

むやうき次。け玉の柔なり。よく温潤の仁徳を以て。天下の御政をまことしめせよ。地曲妙といふは。曲へ不直なり。と云直なる物を。けり。よ。よ。よ。あ。ふ。故。よ。曲。よ。い。ふ。と。い。ふ。れ。も。邪。曲。あ。ら。う。ざ。い。妙。と。い。ふ。ら。お。や。又。い。鏡。乃。ご。く。分。明。な。り。正。直。の。智。を。以。て。山。川。海。濱。ま。も。着。行。し。け。り。下。は。遠。賢。も。な。く。あ。我。を。あ。と。い。へ。ま。や。り。剣。又。勇。に。り。て。剛。あ。ま。ま。剛。め。て。無。慾。よ。や。う。く。何。う。あ。と。な。く。と。い。ふ。もの。あ。ゆ。う。威。あり。て。天下。と。平。げ。万。民。と。利益。し。

宋嘉祐六年

年司馬光

上言人君

大德有三

曰仁曰明

兼備則國

治無闕

則兼備則

則危三者

無焉則

亡

けく。と。我。の。け。三。の。物。一。と。か。け。て。い。天下。治。ま。ま。！
智。仁。勇。乃。三。德。の。ゆ。へ。中庸。代。書。に。侍。行。を。今。
更。く。と。く。し。ま。言。と。と。て。ま。る。と。い。道。を。う。か。
傳。授。す。べ。き。事。な。り。但。智。仁。勇。の。三。德。を。表。し。
或。も。柔。剛。正。直。を。取。と。れ。あ。ら。う。ま。い。傳。授。あ。ら。う。故。よ。と。い。や。
く。解。を。な。事。か。くの。と。い。ま。ま。地。の。曲。も。危。ま。
ら。う。か。ん。け。神。勅。を。都。が。く。傳。授。す。天下。に。
御。あ。ふ。の。心。味。味。な。べ。き。御。事。や。又。欽。
明。帝。乃。御。定。ま。二。所。太。神。宮。の。大。神。主。飛。鳥。と。

飛鳥乃乃

百命第三

男也

御中御興
眞語通興
眞經津鏡
之眞同
條名鈔云
靈美如友

つひー人の筆作れ紀天御中主尊と
虚而有靈一而无形と
覺はる朱子の明德と註せらるゝ
具衆理應萬事や
きこや一而无形
中へ鏡といふ和訓と一字略せ
徳と鏡よきしん
心と鏡よみろく
太神よ同
心と鏡よみろく
徳と鏡よきしん
心と鏡よみろく
太神よ同

よる人くれ心中小神
うらまゝ心い舎の戸
おさびうき
舎れ戸とひしき
迎比乃佛氏の中
所くーや教
ゆるそれ故
けりうらる
る物なり
よる人くれ心中小神
うらまゝ心い舎の戸
おさびうき
舎れ戸とひしき
迎比乃佛氏の中
所くーや教
ゆるそれ故
けりうらる
る物なり

日本紀云
天神謂伊
矣諾尊伊
矣再尊云
云廼賜天
瓊文古語
云玉戈之
道言道之
本源出自
天以不逆
天爲神道

中よいしぞまういなりふきまびとらへ。大学の誠意
レ工丈。さう後ども鏡のや体平なるべし
かげゆぐむもの也。其平なるがらと平にまねび
ふ姿とそれまにうけす。いよて正心の工丈と
べー正直やいもいり也。直中て正なるいあり
但正なるいり直父の羊と攘れと。子のあり
あうに同トなりん。又倭姫皇女神明の御記宣と
告げおれはあも。夫逆天則無道。逆天則無德而
外走本居没落根國。故齊情天地乘想風雲爲從道之

日本紀
云陸在天
神訓加美
即如良

本爲守神之要。將除万言之雜說。而舉一心之定準。即
配天余而掌神氣也。信乎神徳をありてこよ
く信獲ぞくゆを治しき事あり。凡そ感以て
窺ひやゆらふ。逆天則無道と。中庸に云く
天之命せしむと性也。い性よるし。是とん
道も教も。天よ
了る。あれをけり。教よるし。道よ
り。之の性よるし。性よるし。天よ逆なり。天よさ
り。道よるし。教よるし。道よるし。道よるし。

方集

て。性セイのまゝにまへ。天子テンシありてい。元亨ゲンコウ利貞レイテイ人
 在シて仁ニ義ギ禮レイ智チかうふ所トなり。信シンありて仁ニ義ギ禮レイ智チ
 とシつ時ト。天子テンシ不ス逆ギャク。有イ道ドウの人トや。逆ギャク地チ則スレバ
 無ム德トク。は德トクを天テンより心ココロより理リなり。そを明德メイタク
 とシつ。載セて捨スふ事ト。物モノと生長シヨウカウして成就ジュウジウ
 地チの德トクを後ノチに是コトと法ホウ則スレバ。万マン民ミン生長シヨウカウとシま。
 仁ニ德トクと行ユクと命メイ。地チの德トクより心ココロより念ネン弘コウの量リヤウと
 めく心ココロせらく。物モノと絶タチ於ケル。愛アイ憐レンなり。地チは
 心ココロひいて無ム德トクなり。仁ニ愛アイの理リ心ココロ乃ハ德トク。義ギ

仁事紀云
 風根之國
 釋名云地
 底也其體
 在底上
 百事記云
 根之堅洲
 國白虎通
 云北方鹹
 者所以堅
 之也

禮レイ智チ也。仁ニより後ノチに仁ニ心ココロなり。逆ギャク地チを
 仁ニより人ヒトと有イ德トクの人ヒトとシんや。外ヘ走ハレ本ホ居キ没ボツ落ラク根コン
 國クニや。本ホ居キ人ヒトく固コウ有イの本ホ心ココロ也。逆ギャク天テン逆ギャク地チの人ヒト迷メイ
 ぐ故コト心ココロ外ヘ走ハレて没ボツ落ラク根コン也。根コン國クニは。黃ワウ泉センと指サス
 く心ココロ。地チ下カと云ク。根コンと云ク。根コンと云ク。和ワ訓クニ通ツ
 子シは北方ホクフウ陰イン間カンの方カタなり。北方ホクフウと云ク。心ココロは
 説セツは陰イン間カンと指サスて深フカと云ク。逆ギャク地チは。逆ギャク地チは。逆ギャク地チは。逆ギャク地チは。
 らりてい。心ココロは。外ヘ走ハレて本ホ居キと離チて陰イン忍ニン入ニ
 域イキは落ラク入ニ。是コト也。根コン國クニは没ボツ落ラクす。故コト神カミ記キ

此語見干
漢書傳記

よと。任其本心皆令得大道也。ちり。中心のまゝなる
聖人なり。孟子の求放心とれ教と。本心よ任せよやぞ
大賢乃教神記よ替ふなくゆる。故存情天地兼想風
雲為從道之本為身神之要とけ。情の性の發小して
喜怒哀樂なり。情天地よ存まの發して節よあゝる和
なり。想の意の属なり。意心の發小して。善惡
まゝの物なれば。い想着とれ何の心僻て。闇迷よ故
小物よ執滞とらまなくして。風雲よ存まの發して。善
とてとてとや。昔唐小存まの發とて。故新國とて

此發家古
事出于本
草綱目

日本純崩
訓加美阿
卯萬葉
集日皇
子尊宮
歌天原石
門平神
上座奴

夷乃國の人来てかの塚と堀とるの塚の中より丸き
丸やうなる物と取わぬその丸き物と割てん丸
中に山水ありて青碧とけり。傍ふらいた女の
靚粧して屋のらんん小寄かつと。山水とかがめて。前
ける不思議と云も。傳なり。是のひり山水と歌ひて。執
悪とら婦人の心凝らるや。あまの物よ着らる
何のゆひなり。ありと。を流し。ひき事也。人の天の
正氣とゆて。生らる故。お。流ま。ば。天上よ。ゆ。天御中主
の。天照太神の。左右小あり。より。ま。の。事。也。悪人

此物復也

心は天のまゝにせしむ。物小恙もなほ。彼婦人のまゝに
 此事とあるべし。しるしとて佛氏の言やういふ人々
 あるまゝのまゝのまゝに。但心滞りたるは。清きものと濁き
 持てけり。心は人の欲の繩は。清きものと濁き
 て。働かざる時。物は應ぜざり。應せぬ。心は人の欲の繩は。清き
 心は死せしむる。心死する。心は人の欲の繩は。清き
 なる。故小想と乗風雲て。心と活せしむる。活せしむる
 時。行住座立も。道小あはれ。心は人の欲の繩は。清き
 う。心の主か。神は人の欲の繩は。清き

心は人の欲の繩は。清きものと濁き
 と云ふ。心は人の欲の繩は。清きものと濁き
 一心之定準と。雑説の。駁雑之説なり。一言二言の雑説
 小惑や。心は人の欲の繩は。清きものと濁き
 非や。心は人の欲の繩は。清きものと濁き
 雑説の。耳小字と。心は人の欲の繩は。清きものと濁き
 雑学なり。心は人の欲の繩は。清きものと濁き
 廣く。心は人の欲の繩は。清きものと濁き

由らうて終身悟ふ期もなり。若し此の人の所
 やなりて教ふと後乃学者又且此まへてて学問
 としかやこれ事めてこそあつて信ぜらる。是れ一盲
 引衆盲もせん一心乃定準と。是れ心づき事也
 心も虚めさぬ何もなき物と計ゆて定準やと
 りて人ちりびと又何くゆて定準といぬら
 物ぞとさぬ愚なる人の心ゆなり定準やとい味
 かめくさへ一。若し此事と多くいふは是れ言
 難論とやなりん其味ハ何らば一。此れ一也

定準とて一。若し此れ其も一。配天余一
 神氣とせんやなり。即乃字ハ此れ也。此速なり
 事との一也。配天余一。神氣とせん。神
 聖の地位なり。我徳配天余一。至大至剛の
 神氣ハ。固者乃氣なり。事と嘗味て真知あり。時
 也。天人一致の地位なり。但一心の定準と事
 事とちりちりなり。若し一也。此の地位ハ
 いふん。奉の字ハ知れ。兼なり。言ハ味とん事
 あり。若し此神語。神文乃旧記ハ此れなり。

もあつても事なり。い神乃申一字とて

秋志野
志野二字

儒乃旨おのるなり。事乃事なり。事乃事なり。儒書

當削去目
本紀云云

と以神語を名付偽て書るなり。漢字と

免田吾城
神名帳字

和國乃神意とのべきなり。又倭姫世記

陀郡阿紀
神社今云

と云書小崇神天皇六十年。大和國宇多秋志野

明山也秋
藤在添下

宮小天照太神と云書。四年まじり。まじり。まじり。

世記云天
見通命孫

倭姫命太神の杖代なり。て海なり。宇太太采祿

八枕加伎
刀部兒宇

奈や云人よ。一。無黒心。以丹心清浄。奈

不乃入采
休奈

慎危物不移右。右物不移危。龙左右。龙返右廻。夏葛

事遷事 奈久志 大神奉仕 元元本本故也。いん是

又前なり。言也。まじり。心と云と黒心と事

る。思。水色陰あり。闇昧也。心火あり。陽明なり

に。却而陰闇小なり。黒心也。故まじり。心と云和

語と漢字よりして。思心と書るなり。まじり。心と

へ。赤丹也。心の色と也。のまじり。一點の如く。心と

。赤丹也。心の色と也。のまじり。一點の如く。心と

。赤丹也。心の色と也。のまじり。一點の如く。心と

。赤丹也。心の色と也。のまじり。一點の如く。心と

。赤丹也。心の色と也。のまじり。一點の如く。心と

神祇令云 散齊之内 不得用衆 問病食完 亦不判刑 殺不決罰 罪人不作 音樂不預 穢惡車致 齊唯多事 得行自餘 悉斷延曆 廿年五月 十四日格 云犯屏表間扶等六色禁忌者宜科杖按不預穢惡事者總前六條

神祇令云 散齊之内 不得用衆 問病食完 亦不判刑 殺不決罰 罪人不作 音樂不預 穢惡車致 齊唯多事 得行自餘 悉斷延曆 廿年五月 十四日格 云犯屏表間扶等六色禁忌者宜科杖按不預穢惡事者總前六條

神祇令云 散齊之内 不得用衆 問病食完 亦不判刑 殺不決罰 罪人不作 音樂不預 穢惡車致 齊唯多事 得行自餘 悉斷延曆 廿年五月 十四日格 云犯屏表間扶等六色禁忌者宜科杖按不預穢惡事者總前六條

神祇令云 散齊之内 不得用衆 問病食完 亦不判刑 殺不決罰 罪人不作 音樂不預 穢惡車致 齊唯多事 得行自餘 悉斷延曆 廿年五月 十四日格 云犯屏表間扶等六色禁忌者宜科杖按不預穢惡事者總前六條

神祇令云 散齊之内 不得用衆 問病食完 亦不判刑 殺不決罰 罪人不作 音樂不預 穢惡車致 齊唯多事 得行自餘 悉斷延曆 廿年五月 十四日格 云犯屏表間扶等六色禁忌者宜科杖按不預穢惡事者總前六條

神祇令云 散齊之内 不得用衆 問病食完 亦不判刑 殺不決罰 罪人不作 音樂不預 穢惡車致 齊唯多事 得行自餘 悉斷延曆 廿年五月 十四日格 云犯屏表間扶等六色禁忌者宜科杖按不預穢惡事者總前六條

取人の右れはよは後也。これ倭姫命此違命と今
 れ世も守なりや云。所もあるべし。とんどの事と
 のこ心ゆるはみせむ。此見なり倭姫の教いあり
 違ふありとて。はるるをむくは。このもの
 に推しては。君の道と行いて。人々
 憐れ。臣乃道と行いて。忠と行いて。身と惜む。
 父の道と行いて。子といはる。子い子
 行いて。孝と行く。夫の道と行いて。婦人
 行。婦人乃道と行いて。夫を以て。地も心も

冠の才とありし。弟の兄と。やまひ。朋友は。いと
 以て親之。其外行任坐外の。姉もあひま。あ
 物とたよ。のさぬや。之も。君の事とありし。事
 して。百姓と。あ。め。不忠。して。君と。あ。ん
 や。も。ん。是ぞ。危乃物と。存。右の。物と。危。ん
 あ。ん。父子。夫婦。兄弟。朋友。も。是。也。是。い。宇。太。大。宗。祿
 奈。が。身。上。の。所。教。な。後。也。も。聖。女。の。言。あ。れ。ど
 存。よ。通。也。此。理。と。わ。り。て。身。よ。と。な。ら。ん。也。儒

聖人の心誠一なる故也。首知の赤子と也。伎藝の誠一乃心と一なるが如くして、聖經賢傳と博學の赤子の心乃まはるる也。世と海と有知の赤子なるべし。只博學やの心は、雜書までも博く學びて人はほころひ、雜學もて博學もはたさざらん。古くも、教弟書等の聖經賢傳と學ぶもの一は眼と心と。一を忘れて書物乃に心と入らん。古人の云、書籍のみにて、蠹魚なるべし。但一とくも、形あるものは、たゞよく味あべし。海との博學は百千

万や、能て辨かるものと博くもあんで、彼一心の理と一致なる事と、心は味へば、ありて終る。教るなり。一は、たゞと云ふ也。一は百千万の体、百千萬の一乃、困るる也。又博學と、通じて、只一と、心は、人とあり。是は百千萬の一の用なる事と、たゞて、万事に、遊も、たゞ、む、は、く、學、で、一、改、じ、る、是、を、元、元、本、本、の、心、を、ら、ん、と、云、ふ、と、佛、氏、な、げ、と、れ、た、ん、と、云、ふ、部、習、會、の、神、道、の、神、意、を、い、ひ、ら、ん、と、云、ふ、甚、妙、な、事、な、ら、ん、と、云、ふ、又、儒、の、習、會、な、ら、ん、と、云、ふ、そ、う、ら、ん、と、云、ふ、い、れ、も、あ、れ、儒、と

習合の神道よりあらずそのづからいぬるに於
か。多し。異國の金も我國の金も同じく徳を
英國の金も同じく徳を。似たり事なき
や。れども。心と虚と。味へく。んま
。兩部習合の強く。合する物なり。それと世を
人。し。ぬ。お。日。中國の神社。い。次。次。く。佛。氏。の。ん
。わ。い。な。れ。我。一。所。太。神。宮。計。を。倭。姫。命。の。屏。佛。
法。息。再。拜。神。祇。せ。も。や。の。こ。ま。遣。命。よ。返。り。せ。今。い
外。院。へ。な。り。で。い。僧。尼。の。系。統。と。ゆ。り。さ。ず。し。所。統。也。未。代

此事なれ。遣命おたりよりの。と。な。ま。あ。ま。ず
。ま。く。一。に。事。あ。れ。さ。る。ま。ず。我。神。宮。也。と。世。に。通
。て。佛。寺。也。と。盛。り。なり。未。社。な。り。の。名。の。お。て。相。成
。回。小。り。積。り。な。り。や。あ。い。の。な。く。そ。の。相。成。り。な
。る。人。な。り。ま。も。多。く。わ。く。成。も。て。ゆ。り。も。何。ゆ。り。や。神
。の。名。を。と。ぶ。お。人。も。あ。れ。な。り。書。い。故。家。小。り。な
。り。お。ま。を。敵。家。の。お。り。と。や。あ。ら。ん。自。ら。ん。と。い。ふ
。し。て。他。の。もの。ん。せ。ず。虫。や。氣。乃。巢。也。な。り。て。朽。る。
。の。積。り。三。百。年。來。次。次。く。子。神。地。也。變。り。て。伊。海

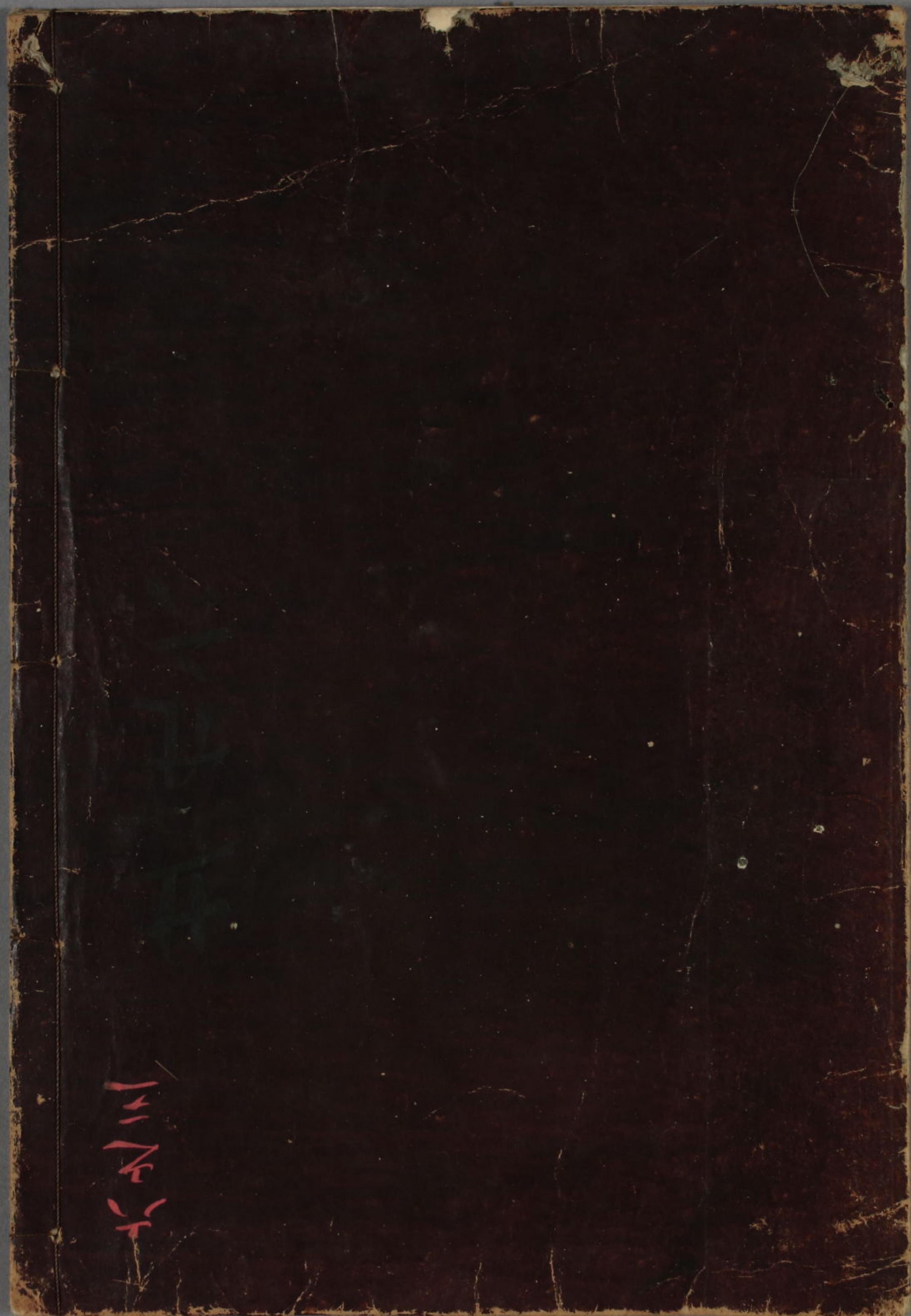
神宮

神宮

いず。家祀^シ祠^シ祭^スなり。をわづく神道とせしむ。やしく。いしく
し。わづく。わづく。おとく。ふつ。も。し。あ。め。い。は。く。く
や。思。ふ。と。ぬ。い。我。れ。家。廟。社。稷。の。神。と。指。て。何
の。神。道。ぞ。ん。や。英。國。の。神。を。き。ふ。や。し。英。國。の
か。と。合。て。我。國。の。か。と。ぬ。ん。が。と。稱。す。の。夷。狄。乃。法。ま
す。と。ん。の。を。い。あ。ん。真。儒。の。や。う。あ。し。あ。し。神
の。あ。ま。い。ふ。お。の。け。ま。い。よ。し。下。の。民。を。て。世
と。天。地。位。し。萬。物。育。せん。あ。い。書。と。傍。人。ん。ん。笑。草
れ。種。あ。ん。ん。但。世。間。の。毀。譽。を。善。惡。あ。し。す。と。見

と。い。ふ。わ。れ。の。り。く。も。や。ら。ん。あ。し。て。わ。れ。の。あ。ま
筆。に。記。し。や。偶。い。記。と。さ。す。事。慶。安。庚。寅。の。冬。
一。陽。復。ア。一。月。な。終。を。陽。復。記。と。名。付。ぬ。に。餘。さ
あ。終。ど。も。い。は。る。一。二。の。同。志。の。もの。を。う。め。い
わ。の。な。終。あ。し。や。あ。い。ふ。お。い。の。終。て。なん
い。書。同。志。の。書。あ。し。あ。よ。この。以。初。学。者。の。儒。也
と。い。ふ。と。あ。や。ま。り。あ。又。い。儒。と。稱。す。人。の。儒。也
を。し。神。道。と。せ。し。く。や。さ。り。其。外。世。の。人。乃
疑。わ。ず。わ。づ。く。あ。ま。あ。ま。や。し。く。を。ま。い。の。印

善と設モウ之ヲ。虎キ子コ附ツ一ニ。



三ノ下